主　論　文　要　旨

No.1

報告番号	甲　乙　第　　号	氏　名	大橋　香奈

主 論 文 題 目：
『移動する「家族」』の映像エスノグラフィー実践：リサーチ・オン・ザ・ムーブ

（内容の要旨）
世界で国境を越えて移動する人びとが増加している。移動した人びとの多くは、母国や他国で暮らす「家族」とのトランスナショナルな交流を続ける。本研究は、彼／彼女が生きる「トランスナショナルな生活世界」のなかに立ち現れる「家族」はどのような関係なのか、どのように形成、維持されているのかについて、生きられた経験に根ざした知を創造することを目的としている。その知は、「グローバル化」「メディア化」「個人化」が進む現代世界を生きる私たちに、「家族」とは何か、生きる基盤としての他者とのつながりをどのように形成、維持しうるかを考える契機を与えると期待できる。映像エスノグラフィーの方法論をベースに、4 年間かけて 5 人の協力者と協働し、映像作品『移動する「家族」』を制作した。作品を 20 箇所の多様な場で上映し、482 人の参加者と対話して解釈と批評を得た。移動に関わる現象を研究し、その成果を移動しながら社会にひらき、研究を多様な文脈に移動させる態度と方法を「リサーチ・オン・ザ・ムーブ」として提案する。本研究では、映像エスノグラフィーの「研究作品」である『移動する「家族」』と論文を組み合わせた「マルチモーダル博士論文」という形式を採用した。第 1 章では、「モビリティーズ・パラダイム」という視座転換、モビリティーズ研究の系譜を整理したうえで、モバイルな「生」をめぐる知というテーマの重要性や、その知を創造するにあたっての課題を述べた。第 2 章では、モバイルな「生」をとらえるための「トランスナショナルな生活世界」という概念的枠組みについて述べた後、トランスナショナルな視点の先行研究を概観した。そのうえで本研究の目的を設定し、その意義を述べた。第 3 章では研究の方法として、映像エスノグラフィーについて概観したうえで、なぜそれを採用するのか、どのように実践するのかについて具体的に検討した。また、方法全体に通底する思想として社会構成主義について述べた。実践結果について、第 4 章では調査、第 5 章では制作、第 6 章では上映という三つの段階に分けて詳述した。第 7 章では研究全体を考察して、研究の態度と方法を「リサーチ・オン・ザ・ムーブ」として提案した。

キーワード：トランスナショナル、家族、社会構成主義、映像エスノグラフィー、アートベース・リサーチ